第１号　平成 20 年 6 月 20 日発行

発刊にあたって

2001（平成 13）年８月、葛西用水の源、利根川の堤防に立った第１回目から、今回は 14 回目を数えるツアーとなりました。

静的な展示や机上で得た知識を、現地で確認するこの講座は、毎回抽選となるほど人気を博しています。このたび参加者のみなさんからいただいたさまざまな声を共有し、ツアー後のまとめとして、館外講座だよりを発刊することになりました。みなさんの参加をお待ちしています。

今回のツアーの目的

1947（昭和 22）年９月、関東地方を襲ったカスリーン台風は、利根川同様、渡良瀬川流域にも大きな被害をもたらしました。その原因は、足尾銅山の採掘に伴って発生した自然環境破壊です。加えて、明治中期に始まる足尾鉱毒事件は、大きな社会問題となり、現在の渡良瀬遊水地へと引き継がれています。私たちを水害から守るため、緑なす美しい足尾の山々で今なお継続している自然と人間の相克を、このツアーで体感しました。

TOUR DATA

時間	経過	所要時間
7:53	博物館出発	
8:09	四つ木IC	
8:20	川口JC	
8:52	利根川を渡る	
9:15	都賀西方PA	15分
9:43	宇都宮IC	
10:05	清滝IC	
10:15	日足トンネル	
10:30	銅山観光入口	120分
12:30	足尾駅	10分
12:45	古河掛水倶楽部	40分
13:30	古河橋付近	
13:35	間藤駅	10分
14:00	銅親水公園	60分
14:55	渡良瀬源流碑	
15:00	龍蔵寺（車窓）	
15:23	清滝IC	
15:48	宇都宮IC	
15:50	大谷PA	20分
17:20	川口PA	15分
18:05	博物館到着	
内山観光バス　ﾌｪﾆｯｸｽ号 ドライバー・小松さん 走行距離：354.5km		
応募87人、当日参加者47名		
参加費2400円・見学費1120円		

画　田口峯子さん　ツアー後いただいたおはがき

過ぎてゆく　足尾の山も　旅人なり

読み人知らず

第 1 号　平成 20 年 6 月 20 日発行

みなさんのアンケートから

渡良瀬源流バスツアーにご参加いただきありがとうございました！

足尾銅山

〇実際にトロッコから降りて坑道の見学は、江戸時代の劣悪な環境での坑夫たちの苦労に胸が熱くなる思いでした。
〇初めてみた煙害の恐ろしさに、ただただ驚きの一声でした。
●渡良瀬川に及ぼした様々な影響を再認識しました。
〇精錬所跡の寒々しい光景には胸が痛みました。経済的に豊かになる一方でのひずみを感じました
〇10 年程前に来たことがありましたが、山がうっすらと緑に覆われていたのにほっとしました。

古河掛水倶楽部

〇鉱夫と経営者側の生活の差を知らされました。
〇和洋折衷の建物は、当時財界の人が出入りして活気があったことでしょう。
●明治 19 年電話開設第 1 号、まして個人で、足尾銅山の内外に通じる電話局にただただ驚くばかりです。
〇 1F・2F の廊下からの景観がなんともよかった。
〇役員社宅の板べいの道は昔の景色としてなつかしかった。

銅親水公園（足尾砂防ダム）

〇雄大です。自然と人間が対決したり折り合ったりしている姿そのもの。
●話には聞いていたが、砂防ダムというものは初めてみました。
〇親水公園というキレイな名称がついていますが、ダムが出来るまでの道のりを考えさせられました。
〇水・河を管理する事の大変さを思う。こういう工事をして下さることにより、私達の生活も守られていることを痛感する。
〇一度破壊された自然を取り戻すには、長い年月が必要。私達の生きているうちに緑の深い山になるでしょうか。
●シアターのビデオの内容がまとまっていて参考になった。
〇渡良瀬川源流碑をさわって感動！　昨年の渡良瀬遊水地の光景を思い出した。実感としてあまりつながらないが・・、治山努力に学ぶべきと思いました。
●川が葛飾まで続く、その様が良くわかりました。

その他

〇今日のテーマに沿って川を見る度に色々普段は思いもしなかった川の見方が出来た。
〇旅行会社のツアーとは違い、とても詳しく勉強になり有難いです。
〇身近なことがいかに大切か、物見遊山ではない企画、これからも期待しています。
●事前学習あり、沿線解説。現地見学等、さずがに博物館主催のバスハイクと感謝しています。
〇今回のバスツアー行程図、カラーでコンパクト、バスのなかで見やすくてよかったです。
●マニアックなツアーをよろしくお願いします。豆相の人車等。
〇集合場所がたいへん不便。
●地震伝説を再び行ってください。

その他、多くのご意見ご感想をいただきました。ちなみに女性〇、男性●です！
ご自分の記事おわかりになりますか？

みなさんの一句から

初参加　足尾銅山　いい出合い

人々の　苦労のあとに　いまがあり

はげ山に　瀬音を競う　うぐいすの声

あかがねに　あわれ感じる　足尾かな

赤肌に　植樹の青に　頭下げ

新緑や　岩肌かくる　日を願い

エニシダや　渡良瀬川の　脈々と

目に青葉　山にうぐいす　バス旅行

夏初め　足尾の山に　緑もえ

ツアー後記

足尾でしぐれに出会ったものの梅雨の間隙をぬったツアー日和でした。
とにかく高速道路のガラガラだったこと、ガソリン値上げを身にしみて感じました。おかげでといってはなんですが、ゆっくり見学時間がとれ、鉄の王道？！足尾駅・間藤駅に立ち寄ることができました。
鉱都、足尾の光と影に想いをよせた感想が多く寄せられました。
銅親水公園では、みなさんどんな感想をもたれたでしょうか？
あの源流碑と、葛飾の生活がみなさんのなかで点から線になったら、このツアーへの課題は成功です。
今回は、約半分の方が初参加でしたが、それぞれご自分の感性で、このツアーを「もの」にしていただければ、こんなにうれしいことはありません。
またの再会を楽しみにしています。ただし、抽選を勝ち取って！ですが。

担当　学芸員　橋本直子　博物館専門調査員　富澤達三

葛飾区
葛飾区郷土と天文の博物館
〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101　FAX 03(5680)0849